

スーダンへの様々な支援

「支援しに行ったのに、皆さんに支えられている」

スーダンは大変暑いところで、50℃を超えることもあります。そんな環境の中での支援活動ですので、**ス** 飲水が大事です。村の中で出された水が濁っていても、地域の人たちが飲んでいて、その濁った水を飲み干していました。彼らと同じものを飲食することで仲間に入り込むことができました。そして地域社会に入り込むことで医療活動ができていきます。我々にご飯を食べさせ、寝るところを彼らが用意してくれます。支えに行ったのに、皆さんに支えられていると感じるのです。そして地域の冠婚葬祭に呼ばれるようになると地域に深く入ったと感じることができました。最初に無料で診療していくと決めていたのですが、お金を持って人がお金を出す、あるいは、村全体で判断する。そういう多様性のある社会に遭遇したわけです。夜はみんなで食事をします。質素な食事でもみんなで食べることで幸せを感じることができます。幸せの閾値が低いのです。人が生きるという原点はここにあると思います。井戸を掘ったり 学校を建てたり、様々なことをしてきましたが、多くは、現地の人々の主体性に任せました。イスラムの世界ではハードルが高い女子の学校入学もできるようにしました。そのような中で、スーダン政府から活動停止命令が出たのです。米国からテロ支援国家に指定され、日米同盟があるのが一因かもしれません。私のスーダンでの活動は、一切、政治的・宗教的背景がないことをスーダン政府の高官に説明するために彼を日本に招聘しました。支援活動の内容は同じですが見せ方を変えて、ロシナンテスでなくJICAの活動として1年間の猶予をもらい出口作戦を練りました。我々日本人が前面に出るのではなく、スーダン人を主役にしました。

今 回のスーダンの内戦ですが、国軍と民兵の争いです。民兵の組織が様々なビルを占領したり、街中で砲弾が飛びかう状況でした。幸い、国連の車列に加わってどうにか帰ることができました。究極の医療は、「戦争をしないこと、戦争をさせないこと」と思っています。民兵には10代と思われる少年兵がいます。彼らはお金のために戦争に加わっているのです。貧困からの脱却、つまり、お金があれば戦争には向かわなくていいのです。



水を得るために井戸も掘りました。毎日、長時間かけて水汲みに行かないといけない女の子に、井戸ができて水汲みしなくてよい自由な時間ができたら、何をしたい？と聞いたら、「勉強したい」と答えてくれたのがうれしかったです。今回のスーダンの内戦ですが、民兵の組織が様々なビルを占領したり、街中で砲弾が飛びかう状況でした。難民キャンプより避難所となる街を作ることと考えます。



新しい考え方：New Africa Africa



スーダンではアカシアから取れる樹液アラビアガムがたくさん採れるので、フェアトレードすれば、きちんとした利益がスーダンに行くと考えています。アフリカの中でもグローバルヘルスを考えて、モバイル型エコーで妊婦の診断をしたり、母子情報システムを作ったり、かえってアフリカの方がデジタル化が進みやすい気もしています。様々な観点からアフリカにできることを考えている毎日です。